

僕は小さい頃から
動物や昆虫が
好きでした





しかし「就活」という文字がよく目の前に現れるようになります



大学では単純に動物が好きだという理由から動物の勉強をする学科で学んでいました



自己分析をし始めて「野生の動物と向き合う仕事」という仮の答えをだしました

しかし、この視点では職業などはほとんどありません

それでも「好きなことを仕事にする」という信念だけはかなり強く持っていました

自尊心や自己肯定にも近い根拠のない信念、だったように思います



そんな時期でした

偶然にも大学のイベント講演で「動物写真家」という職業がこの世にあることを知ったのです



それから僕はすぐに興味を持ち
知れば知るほどそれまで
やっていた勉強や研究との違いが
生じました

その年、卒業研究もせず
理系学科で卒業したのは
その大学で僕だけかも知れません

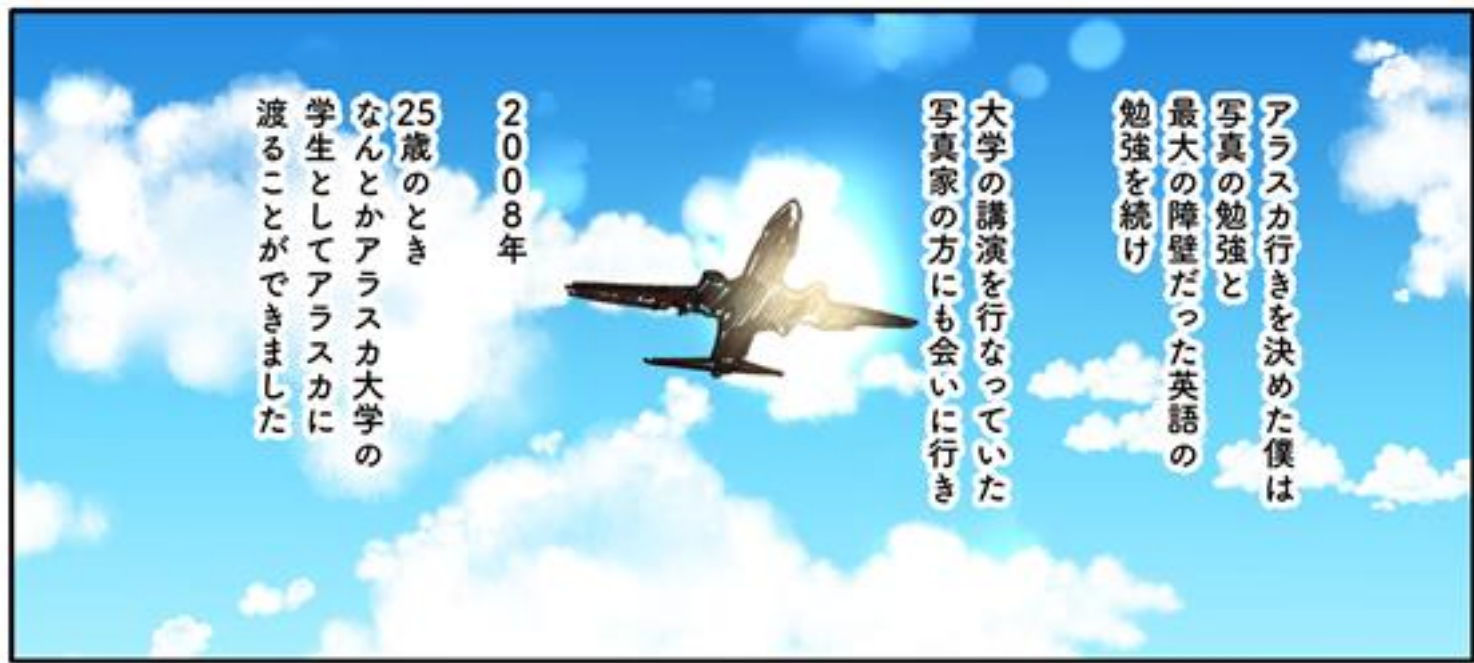
そうしたことで変な緊張感と
「膨大で自由な時間」を得た僕は
いつも通っていた大学図書館で

アラスカの写真集や
北極の野生動物の
資料を読み込んで
いったのです



自分の中に
アラスカで写真撮影を
しているイメージが
できていきました

もし自分の
三十六年のささやかな人生に
ターニングポイントを置くとすれば
十九、二十歳の図書館でのひとときが
挙げられるかもしれません



アラスカ行きを決めた僕は
写真の勉強と
最大の障壁だった英語の
勉強を続け

大学の講演を行っていた
写真家の方にも会いに行き

2008年

25歳のとき
なんとかアラスカ大学の
学生としてアラスカに
渡ることができました



「行き詰まったらどうなるか」

なんて考えていないのですから
やはり少々ネジが外れているのです



僕は少々変わっている
ところがあると思います

危険な目には何度もあっていますが
不思議と怖くないのです

それはどこか、自分の深いところで
根本的な充足感があるからだと思います

アラスカに渡って十年になるいまでは
ここが僕の本来の活動フィールドである
と自覚しています

誰かのために
仕事を熱心に行っている感覚はない
でも遊んでいる感覚でもない

ただ好きなのです

やはりネジが外れている

けれども、このネジが外れたところに僕は
自分のパーソナリティを発見するのです

《僕が歩んだ軌跡と決意》

中島 渉

